

2020年6月9日八代市・萩原会館
瀬戸石ダムを撤去する会

県道冠水問題：電源開発との交渉結果に関する説明会資料

1. 県道冠水問題とは

瀬戸石ダムの完成（1958年）以降、芦北町簸瀬地区を通る県道球磨田浦線では通行出来なくなるような冠水被害が発生するようになった。近年でも2011年、2012年、2016年、2018年と冠水被害が発生し、通行が出来なくなった。現在、このような冠水被害が発生しても通行出来るようにするため、熊本県はかさ上げ工事を行っている。工事費用は総額約9億5千6百万円。私たち瀬戸石ダムを撤去する会は、この冠水は瀬戸石ダムによる水位上昇とダム湖の堆砂による水位上昇が原因であり、この工事費用は原因企業の電源開発株式会社（以下、電源開発）が負担すべきと考えて、関係機関に働きかけることとした。

2. これまでの経緯

2019年12月20日：県に対して、かさ上げ工事費用の負担は電源開発に求めるよう要請（資料1参照）

2020年2月19日付け：電源開発に対して「工事費用は電源開発が負担すべきでないのか」という質問書送付（資料2の別紙1参照）

2020年3月12日付け：電源開発は「道路行政に関しまして弊社は言及する立場にはありません」という拒否回答（資料2の別紙2参照）

2020年4月16日：国交省に対して「県道かさ上げ工事費用を電源開発が負担するよう電源開発を指導」するよう要請（資料2参照）

2020年5月29日：電源開発との交渉。県道冠水被害に関して、瀬戸石ダム湖の堆砂も原因であることを電源開発に認めさせた。この件に関して、熊本県から協議の打診があれば、電源開発は応じるとの回答を引き出した（資料3参照）

3. 今後の活動

①県への働きかけ：電源開発との交渉を行うよう要請（6/8土木部道路都市局道路保全課に依頼）。

②電源開発への働きかけ：県道冠水の原因がダムによる水位上昇とダム湖の堆砂が原因であることを認めさせる。即ち100%ダムが原因であることを認めさせる。

③県民世論への働きかけ：ダムが原因の災害が起こっており、その対策のための工事費用を県費即ち県民負担で行うことはおかしいということを訴えていきたい。

以上